

「がんばろうNAGANO」復興イベント 第9回 ながのとびっくラン in 若穂が開催される ～ 地域児童応援企画 2Kmとびっくラン ～



秋晴れのすがすがしい11月8日(日)若穂中央公園グランドをメインに紅葉が鮮やかな、わかほ五輪記念桜並木通りの一部を利用した2Kmのコースを、学年別・男女別に小学1年生から中学三年生まで、参加者全員が走り抜けました。1週間前から事前に体調管理表によりチェックを行い、当日は手洗い、アルコール消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの保持に努め、コロナ感染防止対策がきめ細くなされて



いました。児童・生徒の皆さんはコロナ禍の中でストレスの多い生活を強いられ、運動不足も心配されましたが、さわやかな表情でゴールしていました。来賓の加藤長野市長はじめ数名の来賓役員の皆様も元気に完走されました。開会式では若穂中学校2年生から開催への感謝を表す横断幕が披露され大会が一層盛り上がりしました。大勢のボランティア・役員の皆様のご尽力により大会が成功裏に開催できましたことに感謝申し上げます。閉会式では、来年は節目となる第10回大会を記念大会としてより盛大に開催したいと力強い宣言が役員からありました。コロナウイルスの感染が収束し大会が実現できることを願っています。



◇若穂地区自主防災会が長野県知事賞を受賞◇

～ 安全・安心な地域社会の構築めざして ～

東日本台風災害対応で功績のあった約79個人・団体が去る10月26日、ホテル国際21において県知事による表彰・感謝状の授与式が挙行されました。

長野市関係では、各消防団そして住民自治協会関係では若穂地区自主防災会連絡協議会(会長竹内守雄)始め7団体が感謝状を受けました。

若穂地区においては、昨年度の19号台風により、支所に災害対策本部を設置・常駐し、各区長との緊急連絡網により一時待機所の設置、避難指示勧告、5ヶ所の避難所の設置、要支援者の避難対応を始め、牛島第3機場の稼働の対応、各河川・農道の決壊対応、千曲川氾濫・増水対応そして被害場所での復旧・復興対応を住民の皆さんとともに行ってきました。この災害を契機に、新たな防災体制・対策に取り組んでおります。

この賞は、住民を始め各区自主防災会・若穂支所・消防署・消防団等の皆さんが一体となって取り組んだ結果であり、改めて御礼と受賞の報告を申し上げます。

なお、感謝状は支所入口右側のハザードマップの横に掲示してあります。



若穂地区自主防災会連絡協議会

仮称若穂スマートインターチェンジ事業化決定！！

10月23日国土交通省道路局より若穂スマートインターチェンジ（仮称）の新規事業化に決定したことが発表されました。平成28年2月に若穂スマートインターチェンジ建設期成同盟会（会長岡田荘史）が設立されました。翌年の7月には国土交通省から新規準備段階調査箇所を選定され、以後期成同盟会が中心となり事業化に向けて国土交通省、長野県、長野市をはじめとする関係機関へ積極的に要望活動を展開してきました。今年度ようやく新規事業化が決定し若穂地区にとって明るい将来展望が描けるようになってきました。スマートインターチェンジの建設を契機にこの地域全体の活性化、産業・観光振興の推進、基盤整備の充実等が図られるよう住民が一丸となって取り組むことが求められます。皆さんの力強いご支援ご協力をお願いします。

♡若穂中学校生徒よりマスクの寄贈♡

～私たちのマスクを使って健康に過ごして下さい。～

「コロナウイルスの影響でマスクの数が少なくなっているのでも、いつも支えて下さっている地域の方々に少しでも役にたちたいと考え、私たちは家庭科の時間にマスクを作り、プレゼントしたいと考えました。

最初は、マスクを作るのが初めてでうまくいかないところがあり、時間がかかってしまいましたが、作っていく内にだんだんスムーズに作れるようになりました。特に難しかったのが、表布の上の方を2cmの三つ

折りにして、上から0.5cmのところを縫うという場所です。班の中で分からないところを教え合ったりし、協力したりすることができました。この学習を通して、マスクが不足しているときに自分で作れるようになり、家族の一員としてできることが増えたので良かったです。そして、自分で作ったという達成感を味わうことができました。これからは、コロナウイルスだけでなく、インフルエンザがはやってくる時期なので、マスクが必要になると思います。」・・・若穂中学校 2年生より



中学校と民生児童委員会の仲立ちをボランティア室が行い、寄贈いただいた350枚の手作りマスクは民生児童委員さんが一人暮らしの高齢者の方へお渡ししています。生徒さんの優しい気持ちとともに手作りマスクを使ってコロナにもインフルエンザにも負けず元気に過ごしましょう。

旧綿内駅舎・プラットホーム解体工事始まる

1922年（大正11年）6月に河東線（屋代―須坂間）が開通し、綿内駅、町川田駅（後に信濃川田駅）が開業しました。長い間通勤通学のみならず買い物娯楽等々住民の足となり親しまれてきましたが、利用客の減少等により平成24年4月1日に多くの住民に惜しまれながら廃線となりました。現在、綿内まちづくり実行委員会では駅舎及びプラットホームの解体に伴い綿内駅周辺の整備計画を進めています。そこではコミュニティ広場の整備、千曲川新道の築造、東西につなぐ道路、新たなバスロータリー等が計画されています。当面、令和4年の善光寺御開帳時の臨時駐車場としての使用が固まっています。駅周辺の有効活用により地域全体が活性化し、住みよい生活環境が構築されるよう住民と一緒に活動することが不可欠であります。皆様のお力添えをお願いいたします。



若穂地区住民自治協議会事務局(若穂支所内) 事務局

☎ 026-282-4621 (E-mail:wakaho.j@grn.janis.or.jp)